

1. 取組を実施した背景・課題

- ◇品質管理技術が船団により異なり、水揚げされる魚の鮮度にバラツキが発生
- ◇人員不足による産地の選別処理能力低下
- ◇水揚げ動向に左右されるプロダクトアウト型の商品開発
- ◇松浦地区で水揚げされる高品質な魚の魅力が消費者に伝わっていない

2. 事業の目的

- 品質管理技術の体系化、マニュアル化の推進
- 効率的な選別ラインの導入や自動化による省力化・省人化
- マーケットインの考え方に基づいた商品開発
- 高品質な水産加工品等の産直販売の実現

3. 協議会構成員の概要

協議会構成員	生産	■日本遠洋旋網漁業協同組合
	加工流通	■西日本魚市株式会社
	販売	■生活協同組合連合会コープ九州事業連合
外部委託先	調査分析	■(一社)海洋水産システム協会 ■(公財)ながさき地域政策研究所

4. 初年度の取組と成果

(1) 品質管理技術の体系化



- まき網漁船の協力の下、漁業～水揚げ～販売の工程における**品質管理に関する調査を実施**
- 漁獲物の品質管理上**問題になりやすいポイントを特定**
- 当該地区で水揚げされる、まき網漁獲物全体の品質管理技術向上に向けた**指針を作成**

(2) 効率的な選別ラインの検討



- 現状の選別ラインにおける**問題点・課題を抽出**
- 課題を解決し、**効率的な選別**を可能にする新選別台の形状・設置方法・人員配置等の検討や、実証機器による検証を実施
- AIによる画像認識技術を用いた新たな選別手法の導入に向けた検討を実施

(3) マーケットイン型の商品開発



- COOP九州との連携により、一般消費者を対象としたマーケティング調査を実施
- マーケティング調査の結果を反映させた新商品の開発に向けた検討を実施

5. 今後の課題と対応方策

- ①**選別ライン導入に向けた実質的な検討** ⇨ 人材不足等の現状の問題点を改善するため、効率的な選別を可能とする選別ラインの実証
- ②**産地と消費者の交流促進による新商品の開発** ⇨ 産地と消費者の交流を促進し、お互いのニーズを引き続き共有。消費者ニーズに合わせたマーケットイン型の商品開発を実施

バリューチェーン分析⑤：西日本地区バリューチェーン流通改善協議会（代表機関：日本遠洋旋網漁業協同組合、長崎県松浦市）

- 人手不足による産地市場の水揚げ処理能力低下を改善するために、AI技術を活用した自動魚種選別機の活用も視野に入れた検討・実証を行うとともに、高品質を保持しつつ、漁獲情報を関係者が共有するシステムとマーケットインの概念に基づく販売戦略を開発することで、バリューチェーンの生産性・付加価値向上を図る。

課題

- ① 選別作業を人海戦術に頼った産地市場の処理速度の遅れ
- ② 産地市場の水揚げ処理能力低下による漁船入港待ちによる鮮度劣化
- ③ 需要ニーズにマッチした生産・加工・流通体制とはなっていない。

対策

- ① 先端技術を活用した迅速な選別とセリによってリードタイムを削減
- ② 高鮮度流通技術等により鮮度を保って消費地まで効率的に輸送
- ③ 川上から川下までの情報共有システムにより市況等を踏まえた漁船操業

事業の効果

- ① 選別作業の効率化により品質劣化を抑えて水揚げを効率化
- ② 市場処理・輸送過程の品質保持による付加価値の向上
- ③ 処理能力の向上による産地としての地位向上と販路拡大

【取組結果】
 ・鮮度保持に関する調査・分析実施。
 ・機器導入が遅れ、システムの構築・実証が未実施。次年度以降導入予定。

